

『道法會元』におけるパーツの意味の整理

村上 敬教

近年、図書館や大学、その他研究機関などにより、古典文学や歴史資料の電子化が進められている。

これらの資料の電子化は、内容の保存及び利用範囲の時間的空間的拡大を目的として、特に資料の劣化が心配される古典の原典や歴史資料において進められている。また、電子化に当たっては、ただ資料を画像データとして保存するだけでなく、電子化資料の研究利用を目的とした使いやすい研究支援ツールが望まれる。

本研究では、様々な宗派の伝えた雷法を始めとする道教呪術儀礼の集大成である『道法會元』を対象として研究を行う。

『道法會元』では図が重要な意味を持ち、符、罡など様々な図が含まれている。さらに符は聚形符と散形符に分けられる。聚形符は符の全体像であり、散形符は聚形符を構成要素ごとに分割し、それぞれに解説文を付け足したものである。散形符の構成要素は、先行研究においてパーツと呼ばれている。『道法會元』は宇陀則彦、松本浩一研究室の共同で電子化が行われており、検索機能や分析支援機能についての研究や符に関する研究が行われている。また、近年の研究成果によって『道法會元』における全ての符を入力したデータベースが作成され、『道法會元』全体に対する研究が可能となった。

本研究では、『道法會元』におけるパーツに登場する名詞を対象として整理を行い、異なる名称で表現されているが、相互に関係のある神将及び星神を整理した表を作成した。

パーツの説明文には神将や星の名称など、様々な種類の名詞が登場する。これらの中には異なる名称で表現されているが、実際には相互に関係を持つものがある。このような名詞を整理した表を作成することにより、『道法會元』におけるデータベースの計量分析に貢献することができると考えられる。

本研究では早川らの研究で作成された、『道法會元』巻 56-268 における全てのパーツを入力した表を対象とした。

パーツの整理においては、パーツに登場する名詞の傾向を示し、21 の神将及び星の名称について、相互に関係すると考えられる名詞をまとめ表の作成を行った。

表の作成では、それぞれの対象について代表名を設定し、対象とする名詞が含まれるパーツに登場する名詞を切り出し、パーツの説明文に含まれる名詞と対象と関係する名詞に項目分けをして入力することにより、どの部分が関係する名詞であり、説明文中にその他にどのような名詞が含まれているかが分かる表を作成した。

本研究によって、パーツに登場する 21 の神将及び星の名称の整理が行われ、同義語や関係の深い神将及び星の名称については検索が可能となった。

(指導教員 松本浩一)